

工事事故(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事故が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事故が再び発生することのないように工事事故概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

【工事事故(速報)発生状況】 (H29.2.28現在)

	2月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成28年度(今年度)	12件	55件	1人	18人
平成27年度(昨年度)	5件	69件	4人	21人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事故発生件数(速報)を示す。

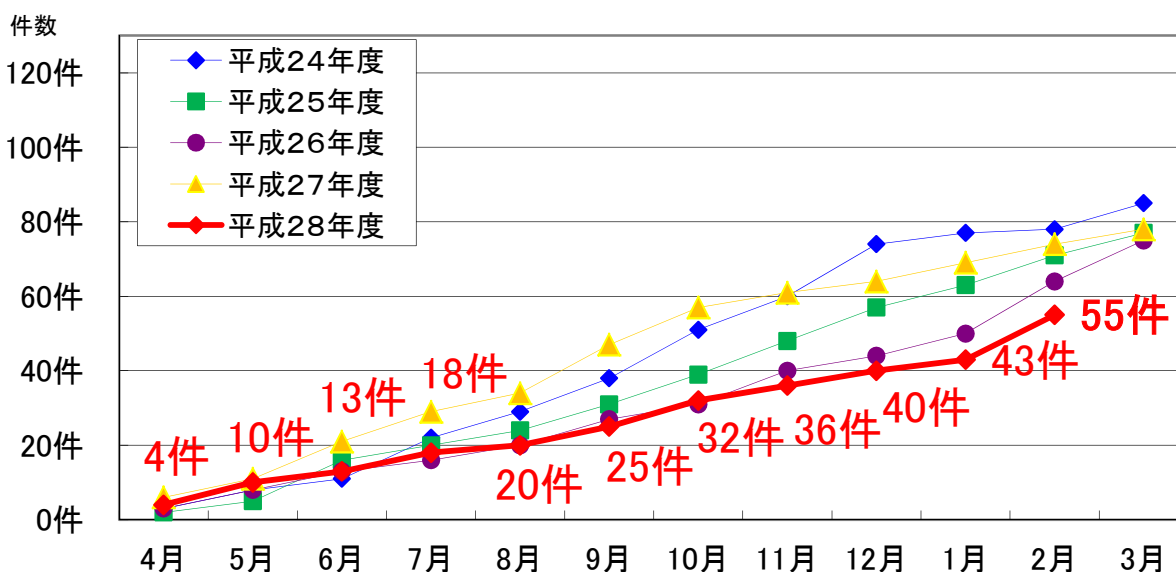
注2) 「2月発生件数」は、2/1～2/28の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

注5) 平成28年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

●工事事故件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成24年度 累計	3件	8件	11件	22件	29件	38件	51件	60件	74件	77件	78件	85件
(月毎)	(3件)	(5件)	(3件)	(11件)	(7件)	(9件)	(13件)	(9件)	(14件)	(3件)	(1件)	(7件)
平成25年度 累計	2件	5件	16件	20件	24件	31件	39件	48件	57件	63件	71件	77件
(月毎)	(2件)	(3件)	(11件)	(4件)	(4件)	(7件)	(8件)	(9件)	(9件)	(6件)	(8件)	(6件)
平成26年度 累計	3件	8件	13件	16件	20件	27件	31件	40件	44件	50件	64件	75件
(月毎)	(3件)	(5件)	(5件)	(3件)	(4件)	(7件)	(4件)	(9件)	(4件)	(6件)	(14件)	(11件)
平成27年度 累計	6件	11件	21件	29件	34件	47件	57件	61件	64件	69件	74件	78件
(月毎)	(6件)	(5件)	(10件)	(8件)	(5件)	(13件)	(10件)	(4件)	(3件)	(5件)	(5件)	(4件)
平成28年度 累計	4件	10件	13件	18件	20件	25件	32件	36件	40件	43件	55件	
(月毎)	(4件)	(6件)	(3件)	(5件)	(2件)	(5件)	(7件)	(4件)	(4件)	(3件)	(12件)	

発生日時	平成 29 年 2 月 4 日 (土) 23 時 25 分			
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	左手首橈骨骨折
事故概要	誘導を受けずに後進したダンプトラックと、ダンプトラック後方にいた作業員が接触し左手首を骨折した。			
	負傷事故—その他 工事関係者			

事故発生状況

発生時の位置関係



発生状況再現



・基礎砕石材料を4tダンプトラックにて現場に搬入した際に、現場内誘導を担当する誘導員が一時不在であったが、誘導を受けずにダンプトラックが後進。

・被災した作業員は転圧後の検尺待ちでハンドガイド式ローラーの操作部に手を掛けた状態で待機していたところ、ダンプトラックが肩から肘にかけて接触し、左手首を捻って骨折した。

【事故発生原因】

- ・作業エリア内で現場誘導員の合図が無い状態でダンプトラックを後進させた。
- ・交通誘導員と現場誘導員の誘導引き渡しで意思疎通がとれていなかった。 など

【事故防止のポイント】

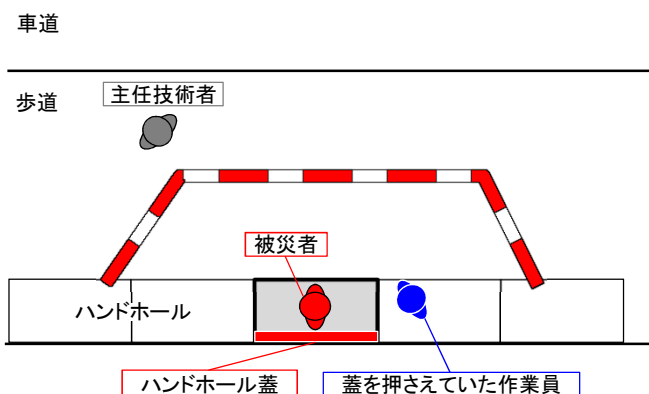
- ・重機・ダンプ等の移動時は誘導員の誘導に従うことを徹底する。
- ・交通誘導員と現場誘導員の引き渡し合図を明確にする。 など

発生日時	平成 29 年 2 月 7 日 (火) 10 時 25 分			
工事情報	道路系事務所 機械設備工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	左手親指付け根、手の甲の骨折
事故概要	作業準備のため、ハンドホール内に入りケーブルの確認を行っていた作業員がハンドホールから出ようとしたところ、立てかけられていたハンドホールの蓋が倒れ、被災者の左手が挟まれ骨折した。			
	負傷事故—資機材等の落下や下敷きで負傷			

事故発生状況

発生時の位置関係

発生状況再現



倒れてきたハンドホール蓋に被災者の左手が挟まれ、負傷

- ・通信線の撤去及び通線作業のため、ハンドホール内でケーブルの状況を確認していた作業員がハンドホール内から出ようとしたところ、立てかけてあった蓋が倒れ、被災者の左手が挟まれた。
- ・ハンドホールの蓋は地上部で別な作業員が手で押さえていたが、被災者がハンドホール内から出てくるときに邪魔にならないよう避けた際に、誤って手を離してしまい蓋が倒れた。
- ・ハンドホールの蓋は取り外して平置きするべきだったが、短時間の作業であると安易に考え、立てかけて押さえていた。

【事故発生原因】

- ・平置きすべき蓋を立てかけていた
- ・蓋を押さえていた作業員が手を離れた
- ・倒れる恐れがありながら誰も危険であると認識しなかった

など

【事故防止のポイント】

- ・作業手順を明確にし、手順に基づいた作業を徹底する
 - ・作業員同士の声かけを実施する
- など

発生日時	平成 29 年 2 月 15 日 (水) 9 時 0 分			
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	—
事故概要	除草作業時に集草用のバックホウのマフラー部と枯草の接触により火災が発生。 周辺約700m2の枯れ草が焼失したもの。 その他の事故(火災)			

事故発生状況

発生時の作業状況



火災発生

重機のマフラー部より高い位置まで枯草が生長していた

火災状況



重機周辺の枯草約700m2が焼失



・作業範囲を確認後、草刈り機で除草作業を始めたが、草刈機の刃にツルが巻き付き作業が困難であったため、バックホウ(0.15m³)でツルの除去を行っていたところバックホウ後方の草が炎上した。

・集積・積み込み用のバックホウを草刈りに使用していた。

・除草前の枯草が密集している範囲に重機を配置し作業を行っていた為、高温の排気ガスやマフラー部と枯草が接触し火災が発生した。

【事故発生原因】

・施工計画書や作業手順書に記載されていない方法で施工しており、重機を本来の用途で使用していなかったなど

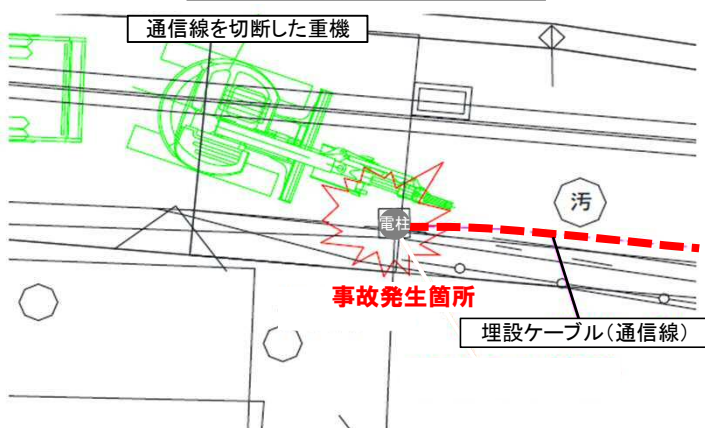
【事故防止のポイント】

・施工計画に基づいた適切な作業実施を徹底させる
 ・重機を本来の用途外で使用させないなど

発生日時	平成 29 年 2 月 22 日 (水) 10 時 40 分			
工事情報	道路系事務所 As舗装工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	
事故概要	歩道部の掘削作業中に電柱への立ち上げ管を損傷し、通信線を切断			
	公衆損害—地下埋設物件損傷			

事故発生状況

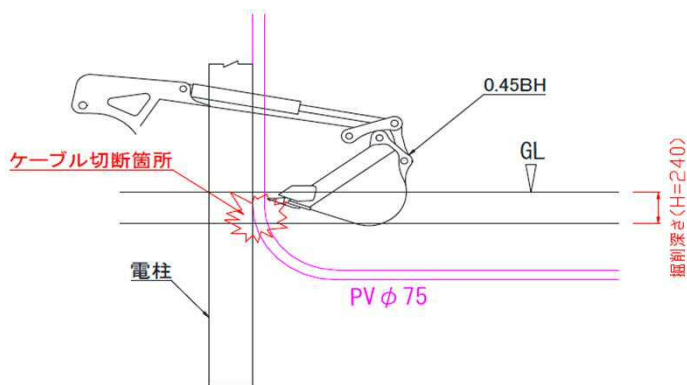
事故発生時の位置関係



埋設管損傷状況



事故発生状況(断面)



- ・歩道の舗装作業の為、バックホウ(0.45m3)にて路床掘削していたところ、電柱へ立ち上げていた管路を破損。管路内に配線されていた通信ケーブルにバケットが接触しケーブルを切断した。
- ・電柱及び管路がある事は目視が可能であったが、管路周辺も人力掘削ではなくバックホウにて施工していた。
- ・刃先監視員は機械掘削は終了したと思い次の作業の段取りに移っていた。

【事故発生原因】

- ・刃先監視員が不在の状態での配管周囲掘削した。
- ・埋設管周辺は人力で行うこととなっていたが、重機オペレーターの自己判断によりバックホウで掘削した。

【事故防止のポイント】

- ・作業手順書、掘削ルールを厳守し、適切な作業実施を徹底させる。
- ・刃先監視員と重機オペレーターは合図を定め、作業の開始・終了を明確にする。 など